

22年セ試確定志願者数は、 前年より9,386人(1.7%)増の55万3,367人！

浪人、7年ぶりに微増。「追試験」会場は47都道府県の69大学に設置。

旺文社 教育情報センター 21年12月

大学入試センターはこの程、22年1月16・17日に実施される22年センター試験の確定志願者数を発表した。志願者数は55万3,367人で、21年より9,386人(1.7%)増え、2年連続の増加となった。現役、男女とも増加し、浪人も7年ぶりに微増となった。

都道府県別では、高知・青森・静岡・秋田など36都道府県が増加、和歌山・滋賀・京都・佐賀など11府県が減少となり、4分の3の地区が増加した。

現役志願率は21年より0.5ポイント上回る41.0%で、過去最高に達した。

他方、新型インフルエンザ対応で1月30日・31日に実施される「追試験」会場は、全国47都道府県の69大学に設置される。

●志願者数 553,367人(543,981人；9,386人増、1.7%増)

<内 訳>

○高校等卒業見込者 440,147人(431,263人；8,884人増、2.1%増)

○高校等卒業者 106,653人(106,133人；520人増、0.5%増)

○「高認」合格者・その他 6,567人(6,585人；18人減、0.3%減)

○現役志願率 41.0%(40.5%；0.5ポイント上昇)

○男女別

① 男子 318,258人<57.5%>(313,693人<57.7%>)

② 女子 235,109人<42.5%>(230,288人<42.3%>)

○都道府県別(出身高校等別による)

① 志願者数が増加した主な県

高知(6.1%増)／青森(4.8%増)／静岡(4.5%増)／秋田(3.9%増)／神奈川(3.8%増)／山口(3.6%増)／宮城(3.5%増)／福島(3.3%増)／三重(3.2%増)等、36都道府県

② 志願者数が減少した主な県

和歌山(4.6%減)／滋賀(2.2%減)／京都(1.9%減)／佐賀(1.1%減)／大分(1.0%減)／徳島(0.7%減)／宮崎(0.7%減)／岩手(0.6%減)／鹿児島(0.3%減)などの11府県

③ 現役志願率の高い主な都県

富山(51.4%)／愛知(50.4%)／広島(49.9%)／東京(49.0%)／石川(48.1%)／山梨(48.0%)／島根(47.2%)／福井(45.7%)／徳島(44.8%)／群馬(44.5%)、等

○成績開示希望別

① 開示希望者 411,030人<74.3%>／② 開示を希望しない者 142,337人<25.7%>

注1. 都道府県別を除く()内は、21年データ及び21年対比の増減、等。

注2. < >内は構成比率。

注3. 「高認」は高等学校卒業程度認定試験の略。

【特記】

① 志願者数

22年の18歳人口は9年ぶり、高卒者数は18年ぶりの増加(高卒者数は21年より約4,000人、0.4%増の106万9,000人を予測。旺文社推定で定時制含まず)が見込まれ、大学・短大への進学率(浪人含む)も56%以上が見込まれる。そうした中、センター試験志願者数は、前年比1.7%増の55万3,367人となった。

② 志願者が増加した主な要因

- 上述のように、来春の高卒者数は、21年の高卒者数が減少(20年より約2万4,000人、2.2%減)したのに対し、18年ぶりの増加が予測される。
- 現役の大学志願率(21年54.9%)のアップが見込まれている中で、私立大のセンター試験参加増(7大学24学部増の494大学1,404学部。21年9月3日現在)と短大の参加増(6短大増の160短大。同)に加え、私立大センター試験利用入試の複線化等による志願者獲得策の拡大。
- 推薦・AO入試などで年内に大学進学を決めてしまう“早期受験組”に対し、学習意欲や学力の維持・向上策の一環として、センター試験を活用。
- 「新型インフルエンザ」への“リスクヘッジ”(危険防止策)としての出願が、22年の特徴としてあげられる。新型インフルエンザ対策として、個別試験も含めた受験機会の確保から、センター試験利用入試を視野に入れた出願も少なくないとみる。

③ 高校等卒業見込者(現役)、浪人の志願者数

現役は20年に減少したが、21・22年と2年連続の増加。現役の志願者数は、高卒者数の増加(予測)に加え、過去最高の現役志願率41.0%に支えられ、21年より8,884人(2.1%)増の44万147人だった。

一方、浪人は16年以降、6年連続減少していたが、7年ぶりに微増(21年より520人、0.5%増)に転じた。経済不況、就職状況の悪化などから、国公立大志向が一層強まったことなどが要因とみられる。

④ 高校の学科別でみた出願状況

志願者のほとんどを占める普通科(志願者数50万4,804人、構成比率92.3%)で志願者増のほか、進学率の高い理数科(構成比率2.1%)や総合学科(同1.8%)などでも増加している。その一方で、農業科の微増を除き、工業科や商業科では減少しており、高校の多様化が進む中、センター試験志願者層の分化もうかがえる。

⑤ 都道府県別でみた主な出願状況

* 志願者数：東京が6万3,269人で突出しており、これに愛知(3万5,450人)、神奈川(3万2,146人)、大阪(2万9,436人)、埼玉(2万8,581人)、兵庫(2万4,364人)、千葉(2万3,927人)と、21年と同じ顔ぶれが続く。

志願者数の増加は全国47都道府県のうち、高知・青森・静岡・秋田・神奈川・山口・宮城・福島・三重・埼玉など、36都道府県が増加した。

一方、和歌山・滋賀・京都・佐賀・大分・徳島・宮崎・岩手・鹿児島・新潟・山梨の11府県で減少した。

* 現役志願率：富山が51.4%で、7年連続の首位をキープ。これに愛知(50.4%)、広島(49.9%)、東京(49.0%)、石川(48.1%)、山梨(48.0%)等、41.0%の全国平均を上回るところが22都県に及ぶ。

⑥ 試験成績の本人開示

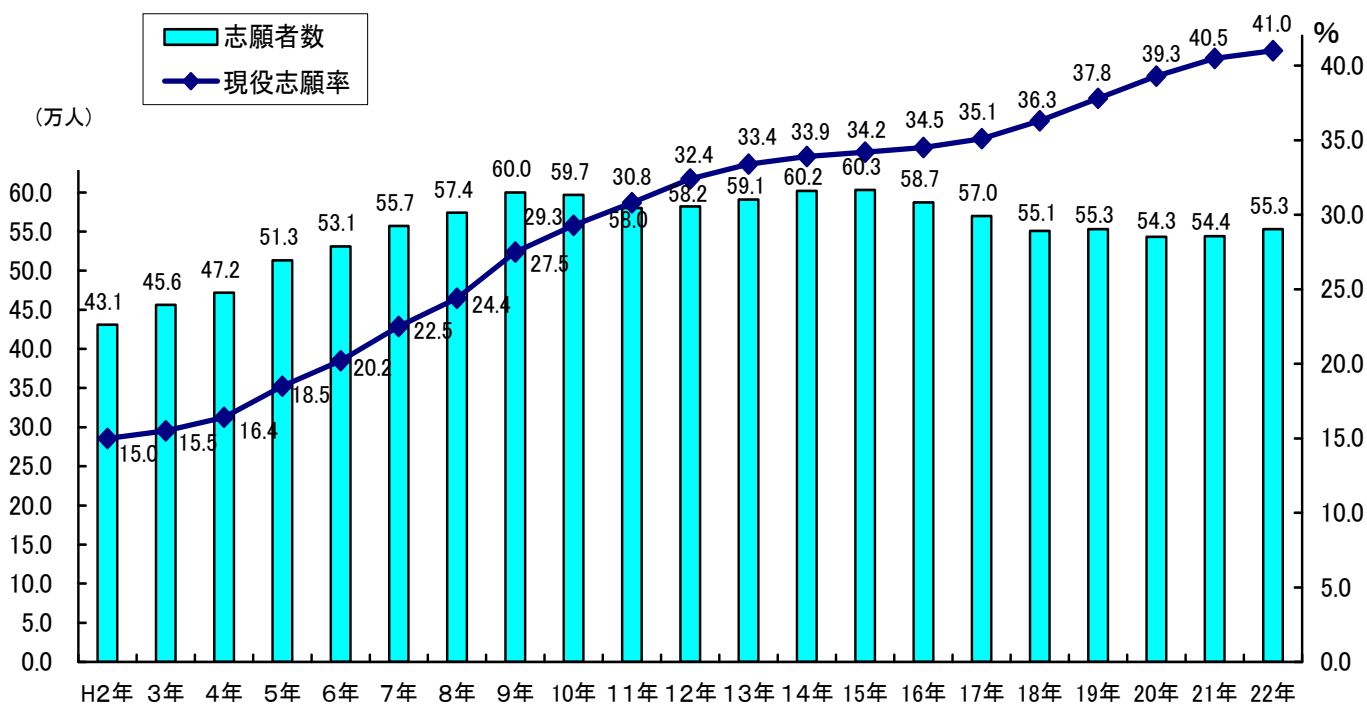
14年より実施されている試験成績の本人開示(事後開示)については、開示希望者数が1万3,907人(3.5%)増え、41万1,030人(志願者の74.3%)となった。

⑦ 「追試験」の実施

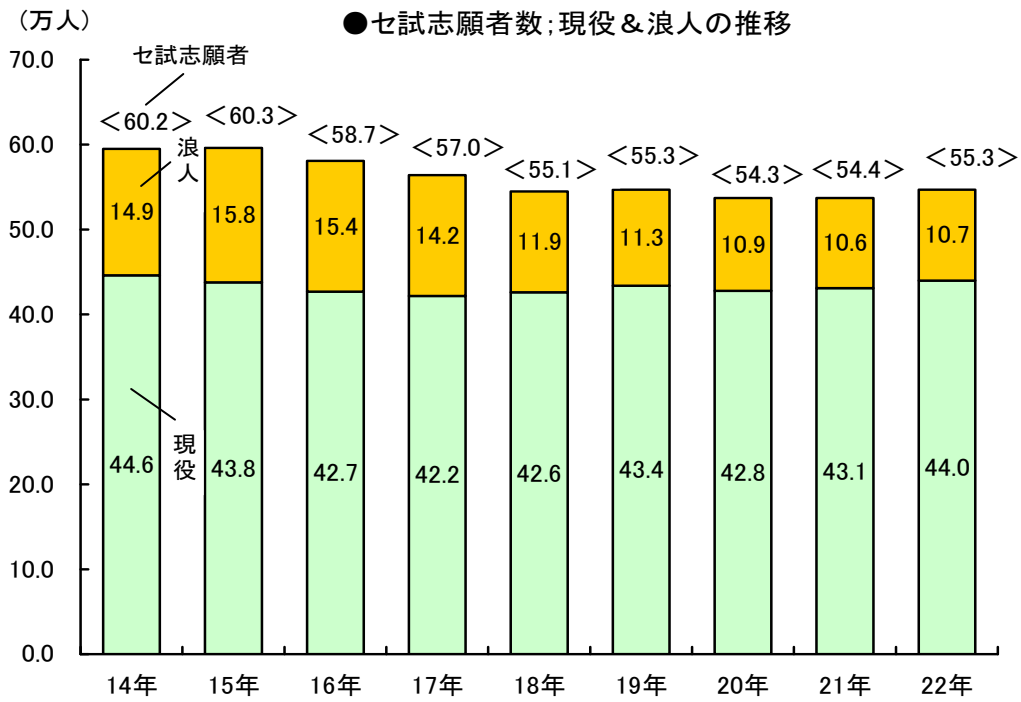
新型インフルエンザの感染拡大に備え、22年センター試験の「追試験」は、「本試験」(22年1月16日・17日)の2週間後、1月30日・31日に実施される。試験会場は、全国47都道府県の69大学に設置される。(表1参照)

(図1)

セ試志願者数&現役志願率の推移

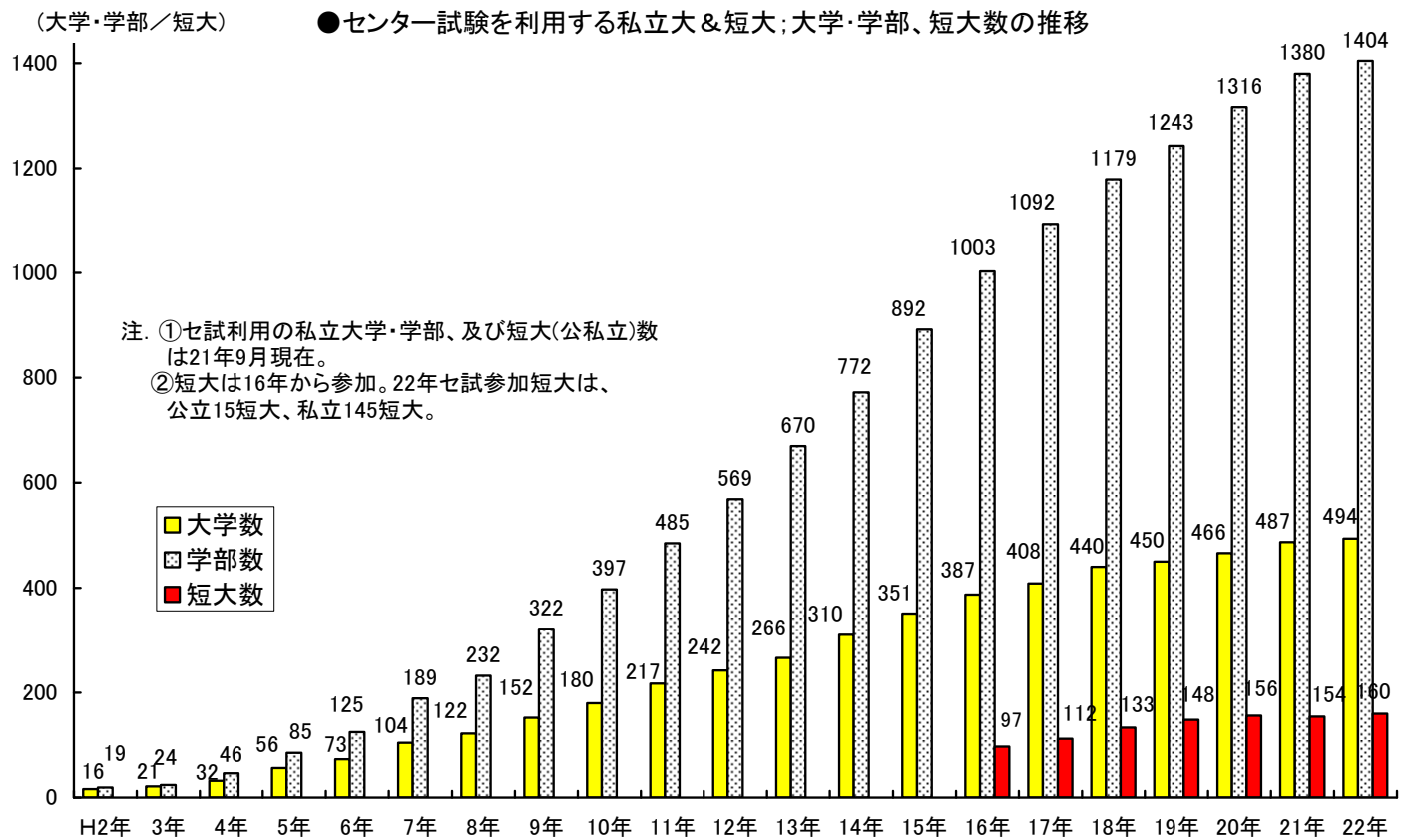


(図 2)



注) 浪人には、「高認」合格者等を含まない。セ試志願者数には、「高認」合格者等含む。

(図 3)



(表1)

●22年センター試験「追試験」実施大学一覧

試験地区	実施大学	試験地区	実施大学	試験地区	実施大学
北海道	①北海道大、②北海道教育大(札幌校)	富山県	富山大	島根県	島根大
青森県	弘前大	石川県	金沢大	岡山県	岡山大
岩手県	岩手大	福井県	福井大	広島県	広島大
宮城県	東北大	山梨県	山梨大	山口県	山口大
秋田県	秋田大	長野県	信州大	徳島県	徳島大
山形県	山形大	岐阜県	岐阜大	香川県	香川大
福島県	福島大	静岡県	静岡大	愛媛県	愛媛大
茨城県	筑波大	愛知県	①名古屋大、②名古屋工業大、③愛知教育大	高知県	高知大
栃木県	宇都宮大	三重県	三重大	福岡県	九州大
群馬県	群馬大	滋賀県	滋賀大	佐賀県	佐賀大
埼玉県	埼玉大	京都府	①京都工芸繊維大、②京成大、③京都教育大	長崎県	長崎大
千葉県	①千葉大、②千葉県立保健医療大、③聖徳大、④東京理科大(野田校舎)	大阪府	①大阪大、②大阪教育大(柏原キャンパス)、③大阪市立大、④大阪府立大	熊本県	熊本大
東京都(23区)	①東京芸術大、②東京大(教養学部)、③東京工業大、④東京海洋大(品川キャンパス)、⑤お茶の水女子大	兵庫県	①神戸大、②兵庫教育大、③兵庫県立大、④神戸市外国語大	大分県	大分大
東京都(上記以外)	①一橋大、②電気通信大、③東京農工大、④東京学芸大	奈良県	奈良教育大	宮崎県	宮崎大
神奈川県	横浜国立大	和歌山県	和歌山大	鹿児島県	鹿児島大
新潟県	新潟大	鳥取県	鳥取大	沖縄県	琉球大

注. 表中の○数字は、試験地区内における「追試験」受験許可者の収容の順序を示す。したがって、当該地区の実施大学については、「追試験」受験許可者数が確定した後に決定される。